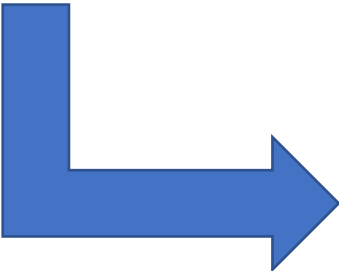


現計画ではおおむね築 6 0 年から 6 5 年を目安に学校施設の老朽化対策を実施することとしている。

(1) 既存校舎などの鉄筋コンクリート造の耐用年数について

本市の市立小・中学校における既存校舎などの鉄筋コンクリート造の耐用年数については、「1. 老朽化対策の検討に当たって」で示したとおり、日本建築学会が示す鉄筋コンクリート造の物理的耐用年数 6 5 年、学校施設の鉄筋コンクリート造の目標耐用年数 6 0 年を参考とし、おおむね築 6 0 年から 6 5 年を目安に学校施設の老朽化対策を実施することとします。

※出典：府中市学校施設
改築・長寿命化改修計
画 P63



上記を基にスケジュールを策定

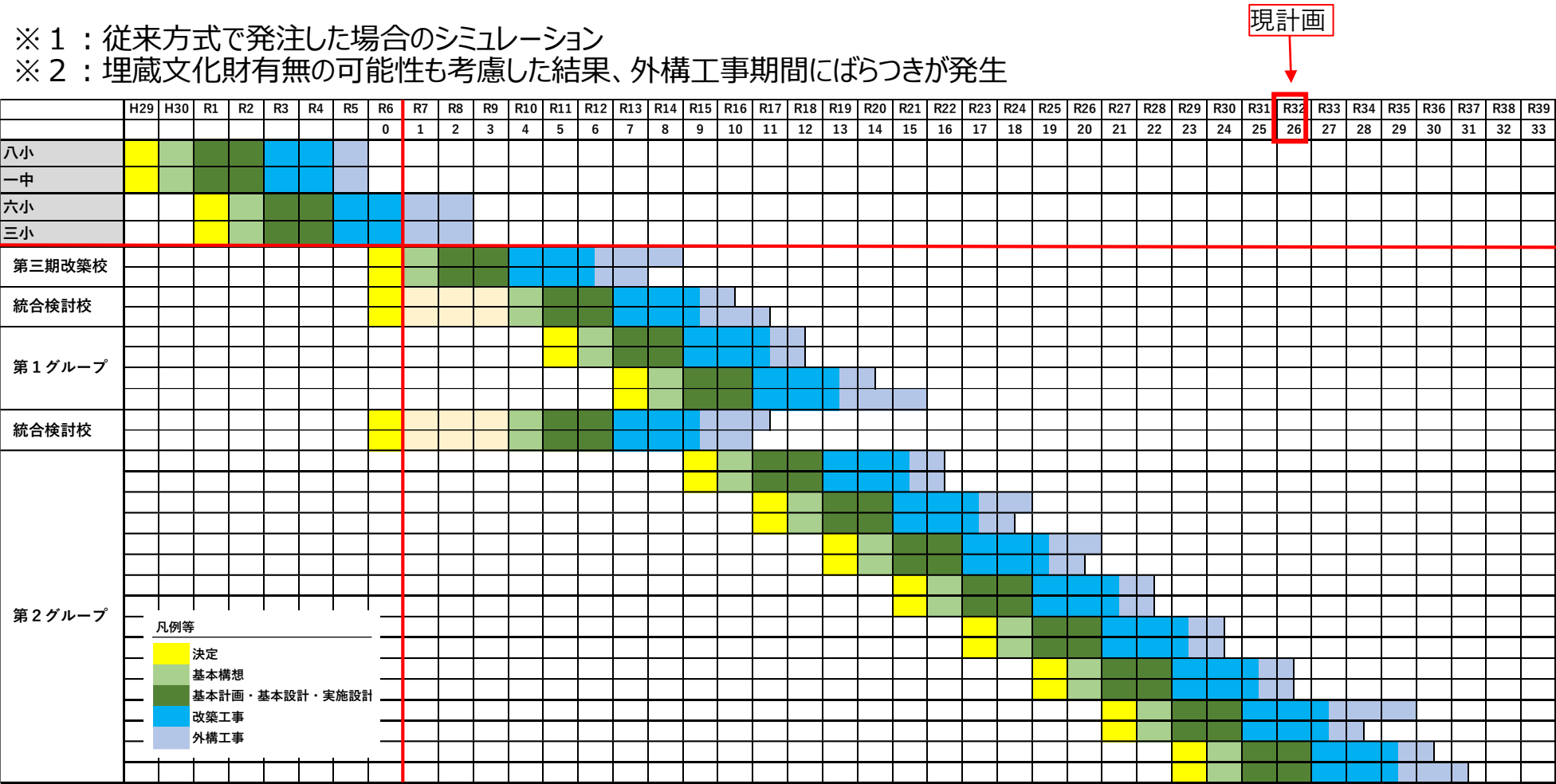
【図表 5 1 学校施設の整備スケジュールについて】

年度（西暦）	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037	2038	2039	2040	2041	2042	2043	2044	2045	2046	2047	2048	2049	2050
年度（令和）	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
計画	策定					見直し																										
早期改築学校 （八小・一中）	基本 設計	実施 設計	工事																													
次期実施校 （三小・六小）			基本 設計	実施 設計	工事																											
第 1 グループ 小学校 8 校 中学校 2 校 計 1 0 校 （次期実施校含む）				基本 設計	実施 設計	工事				基本 設計	実施 設計	工事																				
第 2 グループ （十小・三中・五 中を除く） 小学校 1 2 校 中学校 6 校 計 1 8 校													基本 設計	実施 設計	工事																	

※出典：府中市学校施設
改築・長寿命化改修計画
P81

適正規模・適正配置検討協議会からの答申及び先行した改築校のスケジュールを踏まえたシミュレーション

- ※ 1 : 従来方式で発注した場合のシミュレーション
- ※ 2 : 埋蔵文化財有無の可能性も考慮した結果、外構工事期間にばらつきが発生



①埋蔵文化財発掘調査にかかる期間も考慮した結果、全体的に期間が延び、建て替えまでに築 6 5 年を超える建物が多く存在することになる。

②他市の事例では、長寿命化対策を行うことにより延命化を図るなどで対応。

- ・目黒区：長寿命化改修を行った施設を**80年**使用（築後55年で構造体耐久性調査・評価を行い、長寿命化を行うか判断）
- ・清瀬市：長寿命化改修を行った施設を**80年**使用（築40～60年の間に長寿命化する目的で大規模改修を行う。大規模改修の5年前に建物調査を行う）
- ・川崎市：目標耐用年数算定式から、耐用年数を**80年**に設定。
耐用年数を80年に延ばす場合は長寿命化改修が必須。
20年ごとのサイクルで修繕工事等を行う。

※鉄筋コンクリート造の建築物は、アルカリ性のコンクリートが大気中の二酸化炭素と反応して中性化することで鉄筋の防錆効果が下がり、鉄筋の腐食が始まると言われています。
建物寿命は築年数だけで判断するのではなく、コンクリートの中性化や強度を調査することで残りの耐用年数が算定されます。耐用年数が残り少ない場合も外壁の改修等を行うことで延命が可能となります。



①、②より、方針見直し（案）として、

長寿命化対策を実施し、改築までの延命が可能か確認し進めることを検討する。